

PLAN	No.	29	—	1	事務事業名	社会福祉事務			細事務事業名	社会福祉協議会支援事務			公的関与	6	シート作成日	平成31年6月28日												
	課名	福祉課			グループ	社会福祉			担当課長名	大木弘己			シート作成者名	佐藤典子														
	事業区分	◎ 1 ソフト事業			○ 3 整備事業			○ 5 施設の管理運営			事業運営方法	☐ 1 直営			☐ 3 全部委託													
		○ 2 施設の建設			○ 4 経常的事務事業							☐ 2 一部委託			☒ 4 補助等													
	総合計画	政策目標	3 健やかでやさしいやとみ						実施計画			事業の開始・終了																
		施策項目	障がい者支援の充実						◎ 1 該当			昭和 49 年度 ~ 平成 年度			☒ 期間設定なし													
		主要施策	生活支援の充実						○ 2 非該当			根拠法令等																
	個別計画																											
	事業の目的	対象(誰を・何を)				意図(どういう状態にしたいのか)																						
		社会福祉協議会				複雑・多様化する福祉のニーズに応え、すべての市民が住み慣れた地域で互いに支えながら安心して暮らせるよう、市民総参画による地域福祉体制づくりを図るには、その中核的役割を担う社会福祉協議会への支援や多様な担い手づくりの育成・支援が必要です。																						
事業の内容	地域社会において民間の自主的な福祉活動の中核的役割を担う社会福祉協議会に対し、その他事業運営のための職員派遣及び財政的支援を図り、活動の活性化を促進するとともに、あわせて地域福祉を推進する多様な担い手である民生・児童委員、各種福祉団体、福祉ボランティア団体を育成・支援し、社会福祉協議会との連携のもと、地域福祉サービスの充実を図ります。																											
成果指標	①	指標名	福祉ボランティア団体登録数										②	指標名	福祉ボランティア登録者数													
		指標設定の考え方	地域福祉の担い手を確保します。											単位	団体	指標設定の考え方	地域福祉の担い手を確保します。										単位	人
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 ※ 年度	目標平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 ※ 年度	目標平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 ※ 年度		目標平成 30 年度														
		実績	12	実績	11	目標	※	目標	13	実績	226	実績		200	目標	※	目標	230										
		目標	13	目標	※	目標	※	目標	13	目標	250	目標		※	目標	※	目標	230										
		目標	13	目標	※	目標	※	目標	13	目標	250	目標		※	目標	※	目標	230										
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	3	民生費	項	会福	目	1	社会福祉総務費														
	直接事業費			平成 29 年度決算額				平成 30 年度決算額				平成 ※ 年度予算額																
		国・県支出金		千円				千円				千円																
		地方債		千円				千円				千円																
		その他特定財源		千円				千円				千円																
		一般財源		43,300 千円				53,300 千円				千円																
	計(A)		43,300 千円				53,300 千円				0 千円																	
	人件費(B)	正職員工数・経費		0.177 人				0.177 人				人																
				1,221 千円				1,221 千円				0 千円																
		臨時職員工数・経費		人 0 千円				人 0 千円				人 0 千円																
全体事業費(A+B)		44,521 千円				54,521 千円				0 千円																		

CHECK	チェック項目					一次評価		一次評価の説明	二次評価		
	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は少ない。				☐ はい	☒ いいえ	福祉団体に対し、社会福祉協議会が人的・財政面で援助をしています。市内には社会福祉協議会に代わる支援ができる団体はありません。	☐ はい	☒ いいえ	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性がない。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		3. 住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		4. 住民ニーズの低下がみられる。または、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。				☐ はい	☒ いいえ	事務の改善を含め、目的の達成に向けて努力していきます。	☐ はい	☒ いいえ	
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ	
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っている。				☐ 目標に比べて劣っている	事業計画にそって着実に成果を出しています。	☐ 目標に比べて劣っている			
2. 目標設定に対して成果があまり上がっていない。				☐ あまり上がっていない	☐ あまり上がっていない						
3. 目標設定に対して概ね目標を達成している。				☒ 概ね達成している	☒ 概ね達成している						
4. 目標設定に対して十分に目標を達成している。				☐ 十分達成している	☐ 十分達成している						
効率性	1. 効果に比べてコストが高い。				☐ はい	☒ いいえ	事業所の運営の見直しを図るなど、収益の増収を図る必要があります。また、経営的感覚を持って新たな事業分野を研究し、実施する余地があります。	☐ はい	☒ いいえ		
	2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ		
	3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。				☒ はい	☐ いいえ		☒ はい	☐ いいえ		
	4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。				☐ はい	☒ いいえ		☐ はい	☒ いいえ		
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☒ 4 拡大・充実 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	拡大する社会福祉に対する住民のニーズに対応するため、事務事業の見極めや見直しを行い、また厳しい財政状況の中、事務のスリム化を図りながら、住民の満足度の充実を図ることが課題です。					二次評価での指摘事項(部長の総括意見)				
	課題解決のための改善計画	毎年度、社会福祉協議会に対し各種事業の実施状況や収支状況等のヒアリングを行い、継続実施の必要性の見極めやコストダウンを図りながら、地域ニーズに応えることができる事業を実施し、地域福祉の拠点として事業運営が適正にできるよう進めていきます。					社会福祉協議会の事業は自主的に財源を確保することは大変難しいので、市から委託する事業については、人件費や需用費等を精査して委託する必要があります。				
	備考										